

あすもりのがたり

あすもり資料室の歩き方

発行：コープ未来の森づくり基金

text, illustration and edition, woodyhouse designs

illustrations; こぐれけいすけ

あすもり ものがたり

あすもり資料室の歩き方

いっしょ
あそぼう！
エコステ&
エコセンター



エコステにも行ってみよう！

エコステーションは、巨大木製オブジェ“エコ・わっか”の体験を通してエコセンターやリユース、リサイクルについて学べる施設です。ぜひ一緒に見学してみてください。

見学のご予約・お問い合わせは **011-391-1177** エコセンター / 平日 10:00~17:00

環境教育施設トドックエコステーション「あすもり資料室」は下記のみなさまの多大なるご協力によって設立されました。ここに篤く御礼申し上げます。

協力 (50音順 / 敬称略)

伊藤千織デザイン事務所 / woodyhouse designs / 株式会社エネコープ / 工房 木の夢 / こぐれけいすけ / 株式会社 さっぽろ自然調査館 / 株式会社 ジオ / 中川町持続的森林経営確立推進協議会 / 株式会社のこたべ / 株式会社 フーム空間計画工房 / NPO法人 C・C・C 富良野自然塾 / NPO法人北海道市民環境ネットワーク きたネット / 北海道 水産林務部 森林環境局 / 北海道林業技士会 / 一般財団法人 前田一步園財団 / 株式会社ミュージックキャップ・サッポロ / 木工房 江建社 / 雪印種苗株式会社 / 株式会社 六書堂

監修協力

北海道博物館 水島未記

つなぐ
COOP
SAPPORO

地球が、あぶない

未来の子どもたちに
健やかな未来を
手渡したい。



写真：チャレンジ防災 48 (open.fdma.go.jp/e-college/bosa/index.html)、PIXTA



SDGsの17の目標のロゴマーク

現在、地球上にはさまざまな問題があふれています。たとえば貧困問題や紛争問題、食糧危機にエネルギー、そして環境問題など、わたしたちには解決しなければならない問題が抱えきれないほどあるといえます。このままでは豊かな地球を未来の子どもたちに手渡すことも難しいでしょう。2015年の国連サミットでこれらのさまざまな問題に取り組み、一人も取り残さず持続可能な社会を目指そうという提言がなされました。これが「**持続可能な開発目標、SDGs(Sustainable Development Goals)**」です。

コープさっぽろもこの提言に合わせた行動をすることで、この美しく豊かな北海道を子どもたちに引き継ぐ貢献ができると考え、問題の解決に取り組むこととしています。

※続くページでは、取り組みと関連の深い分野をアイコンで表示しています。

地球温暖化の影響

気候変動、
気象災害の増加、
農地や森林の消失、
生物多様性の危機、

そして、私たちの未来。



これらの問題の中でも深刻だと考えているのが**地球温暖化の問題**です。私たちも近年は異常に暑い夏や毎年のように起こる気象災害でその危機を感じることも多くなりました。原因は人間の活動によって急激に増えたCO₂などの温室効果ガスです。このガスが地球をすっぽり包み込み、まるでレジ袋で覆ったみたいに地球に熱を閉じ込めてしまうのです。そのせいで、世界規模で予測のつかない気候変動が起きるようになりました。

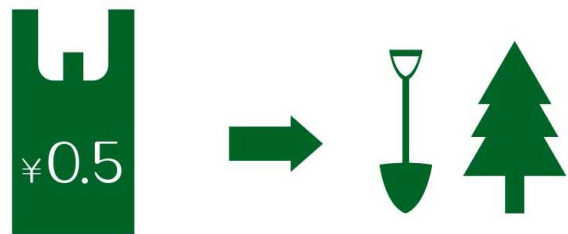
地球温暖化はこの先も進行すると考えられています。天気が極端に変化して大雨や猛暑をもたらしたり、乾燥化して農地がだめになったり森林が減ったり、山火事が多発するかもしれません。また、そうした環境の変化で多くの生き物たちが絶滅に追い込まれると考えられています。私たちの未来は、すでに脅かされているのです。

まずはレジ袋の削減から。

コープさっぽろができること

折しも2008年、「洞爺湖サミット」で地球温暖化が議題に上がったこともあり、コープさっぽろも温暖化防止のためにできることを考えました。そこで、まずはお買い物の際に渡すレジ袋を削減することとしたのです。一方でお客様にご不便をお願いするばかりではいけないので、お買い物の際、**レジ袋をご辞退いただいたお客様一人につき0.5円**を売り上げから積み立てることにしましたのです。

また、地球温暖化を進めるCO₂を減らすことができるのは森林であることから、森づくりで北海道の森林を豊かにすることで温暖化を防ごうということになりました。そこで、レジ袋辞退の積立金と合わせて生まれたのが「あすもり」とこと**コープ未来の森づくり基金**なのです。



レジ袋辞退者

515,471,126 人

積立金合計

257,735,563 円




※2008年～2019年実績

みなさんのおかげで、2019年までの積立金は2億5千万円を超えました。組合員さんたちの努力や、共感していただける企業様など、多くの方々の支えによってあすもりの森づくりは支えられています。

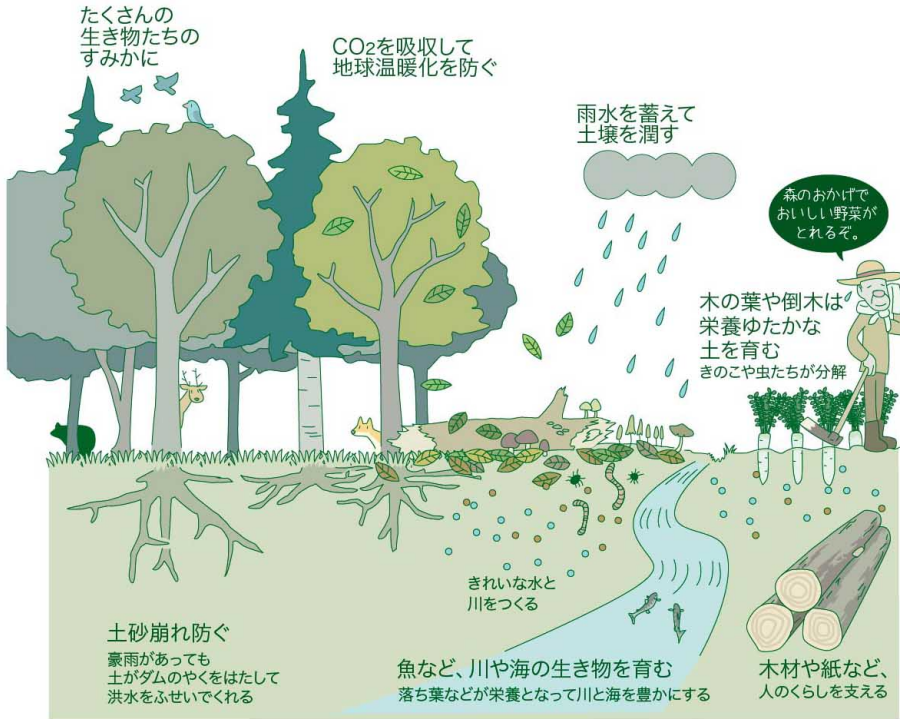
■ あすもりのあゆみ

2008	G8洞爺湖サミット、あすもり設立 第1回コープの森植樹祭 北海道と森づくり協定締結	2012	市民による森づくりワークショップ (のちのFの森ワークショップ) 開催
2009	あすもり助成制度開始	2013	Fの森の森づくり開始 (第6回コープの森植樹祭)
2010	木造店舗 「コープさっぽろ西宮の沢店」開店	2015	第1回コープの森育樹祭
2011	第1回北海道の森づくり交流会 あすもり広報誌「モリイク」創刊	2016	円山動物園コラボ企画 「どんぐりプロジェクト」開始
		2017	トドックエコステーション オープン
		2019	あすもり資料館 オープン

■ あすもりのお仕事

	森づくりをしています。	全道16カ所の「コープの森」で組合員さんとともに植樹や育樹をして森づくりを進めています。
	北海道の森づくりを応援しています。	森づくりに関わる団体に毎年助成を行い、北海道の森づくりや森を活用する取り組みを応援しています。
	森づくりに関するイベントをしています。	木や森に関心を持つきっかけをつくるために、環境教育や木育、子育てなどのイベントを開催しています。

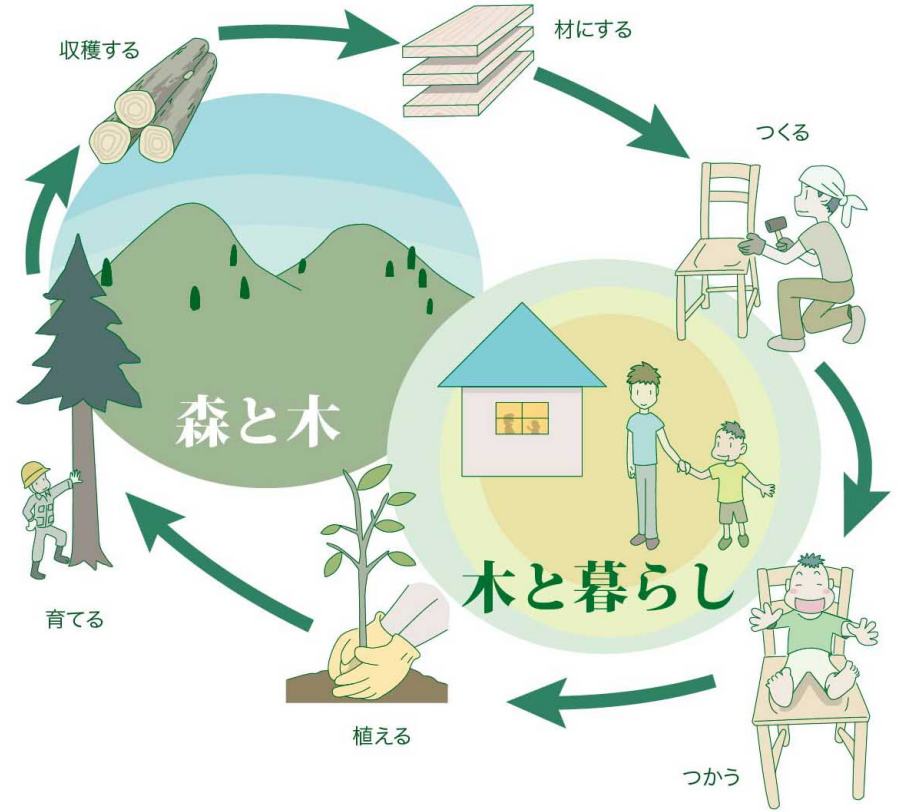
なぜ森づくりなのか



① 森の役割から

コブさっぼろが地球温暖化対策のために森づくりをしようと考えたことにはわけがあります。それはもちろん、森林こそがCO₂を吸収し、固定する機能としては最大のものであること。でも、そのほかにも森にはたくさんの役割があったのです。それは、たくさんの生き物たちを育み、きれいな水を生み、栄養豊かな土を作り…などなど。

実はこれらの機能を森が提供してくれなければ人間が暮らししていくのは大変なことなのです。森を守り、育てることは**地球温暖化対策**だけでなく、**子どもたちに豊かな暮らしを引き継ぐこと**そのものでもあるのです。



② 人と森のつながりから

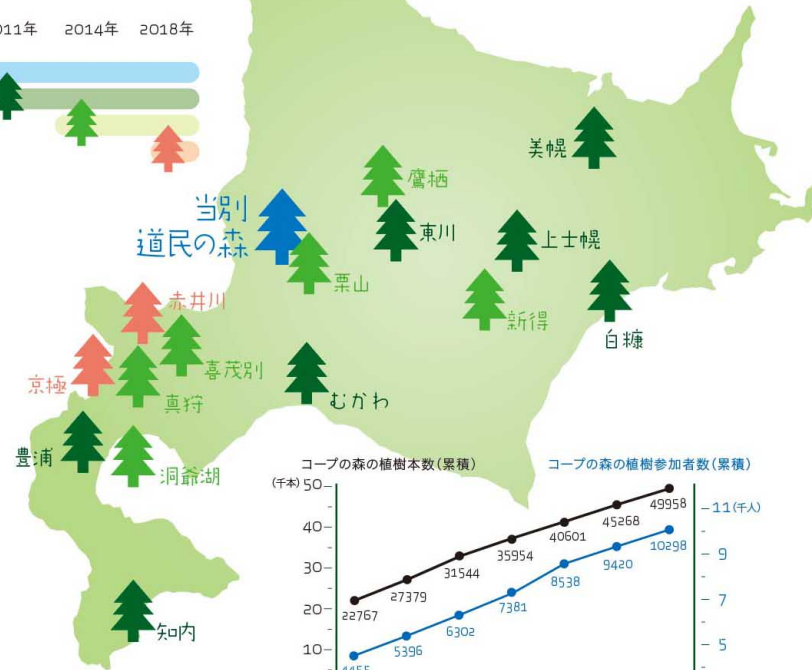
中でも森が私たちに提供してくれるものとしてイメージしやすいのが木材です。一見、身の回りにはそれほど目につかないような場所でも、あらゆるところに木材が使われています。私たちの暮らしは木に囲まれているのです。つまり、**森と私たちはつながっている**といえるのです。

木は植えれば育つ再生可能資源です。育てて木材として利用することで森を保つことができます。特に北海道は森林が豊富な地域。森と人のあらゆるつながりを深めることで森の価値をみんなで共有し、未来につなげていきたいと考えています。

ひろがる、コープの森

全道につなぐ森づくり

2008年 2011年 2014年 2018年



③ 豊かな多様性を守るという視点から

もうひとつのキーワードが**多様性**です。「多様性」は、わりと最近になって知られてきた言葉ですが、持続可能な社会を未来に引き継いでいくためには大切な概念として注目されています。豊かな多様性とは、簡単にいえば、たくさんの違ったものが一緒にいるということ。この世界は小さな違いや大きな違いが複雑にからみあって、支え合っていていきます。だから、その違ったものをともに認め合い、支えあうことの大切さを守り、育てたい。森林は多様性の宝庫。ですから、**森づくりは多様性を生み、育む仕事**ともいえるのです。

現在、北海道にはたくさんの「コープの森」があります。これは、北海道や各市町村とコープさっぽろが森づくりを提携している森のことです。あすもりが生まれた2008年に当別町にある道民の森と提携したのを皮切りに、2017年までに16の市町村と提携して各地でそれぞれの森づくりが進んでいます。

コープの森では毎年たくさんの組合員さんが訪れ、植樹活動をはじめとした森づくりに携わっています。おかげさまで2019年には、ついに植樹した木の数が**10万本**※を突破したため、「コープの森」で記念植樹を行いました。

※あすもりが支援する北海道ぎよれんの「お魚殖やす植樹運動」等を含む数字です

森づくりの考え方



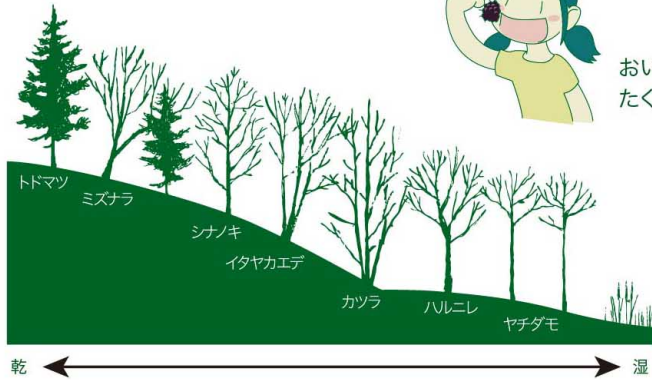
きれいな花や紅葉が楽しめる森



おいしい木の実がたくさんなる森



動物がたくさん集まる森



どんなところにどんな木が生えているか、観察して考える

① 雪で折れちゃうよ

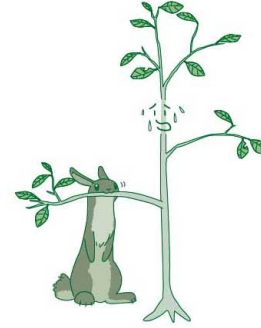


雪によるダメージ



そえ木をして支える

② 枝がだめになっちゃった



動物や雪による枝折れ



折れた枝の剪定

③ 日当たりが悪くなっちゃった



周囲の草によって日当たりが悪くなる



除草して日当たりを確保

① 木を植える前に考える昔のこと、未来のこと

コープの森づくりは、各地区がそれぞれ違った森づくりをしています。より積極的に参加者に森づくりに深く関わってもらう取り組みも行っています。

その中では、未来に残す森はどんな森がいいのかをみんなで学び、考える機会を作っています。たとえば、木は種類によって生える地形が違います。その違いを理解した上で、地形に合った森づくりを考えます。また、森になった時にはそこでどんなふうに過ごしたら楽しいか、未来に自分たちや子どもたちが森で過ごす姿を想像しながら、森づくりの設計図を話し合います。これらは実際の植樹計画に生かされています。

② 植樹から育林へ。植えるだけじゃない森づくり

また、森づくりは100年の仕事でもありますから、植樹して終わりではありません。木を植えた後も面倒を見ることも大切です。

たとえば、雪深い植樹地では植えた木の苗が雪に押しつぶされ、折れたり曲がったりすることも少なくありません。また、動物に食べられてしまったり、周囲の草に覆われて日が当たらず、弱ってしまうこともあります。こうした様々な障害があるために、ある程度大きさまで丈夫に育つまでは見守ってやらなければなりません。これが育児ならぬ育樹です。こうして、育てている森には愛着が湧き、かけがえのないものになっていきます。

未来にとどけ！ みんなの森

「Fの森」が夢見る未来のこと

森を知り、
森に学び、



時には
背文を超える
ヤブを歩き、



雪折れの
枝を切ったり



除草したり
しながら、
みんなで

未来の
森のことを
考えています。

こうした取り組みが実践されているのが、コープの森の中でもシンボリックな存在である「Fの森」です。Fの森は当別町・道民の森の神居尻地区で行われている市民参加型の森づくり。毎年ワークショップ形式で森を学び、植樹の手入れをし、どんな森を育てていこうかと森づくり計画を立てています。

植樹する人が植樹する木や未来の森の姿を考える、今までになかったこうした取り組みで、愛着のある森を育て、責任をもって未来に手渡していく。それが「Fの森」の森づくり。今年もそんな未来につながる森づくりが行われています。みなさんもぜひご参加ください。



植樹エリア 2013~2019



2012年からのワークショップのメンバーによって、木の実が楽しめる森、花がきれいな森、紅葉を愛でる森など、さまざまなタイプの森が設計され、植樹と育林が行われています。

道民の森との提携によって森づくりがはじまったのは2008年。最初の植樹地がいっぱいになったので2013年に別のエリアではじまったのがFの森の森づくりです。Fはこのエリアの記号ですが、そこには復活のF、ファミリーのF、フォレストのFなど、様々な想いが込められています。

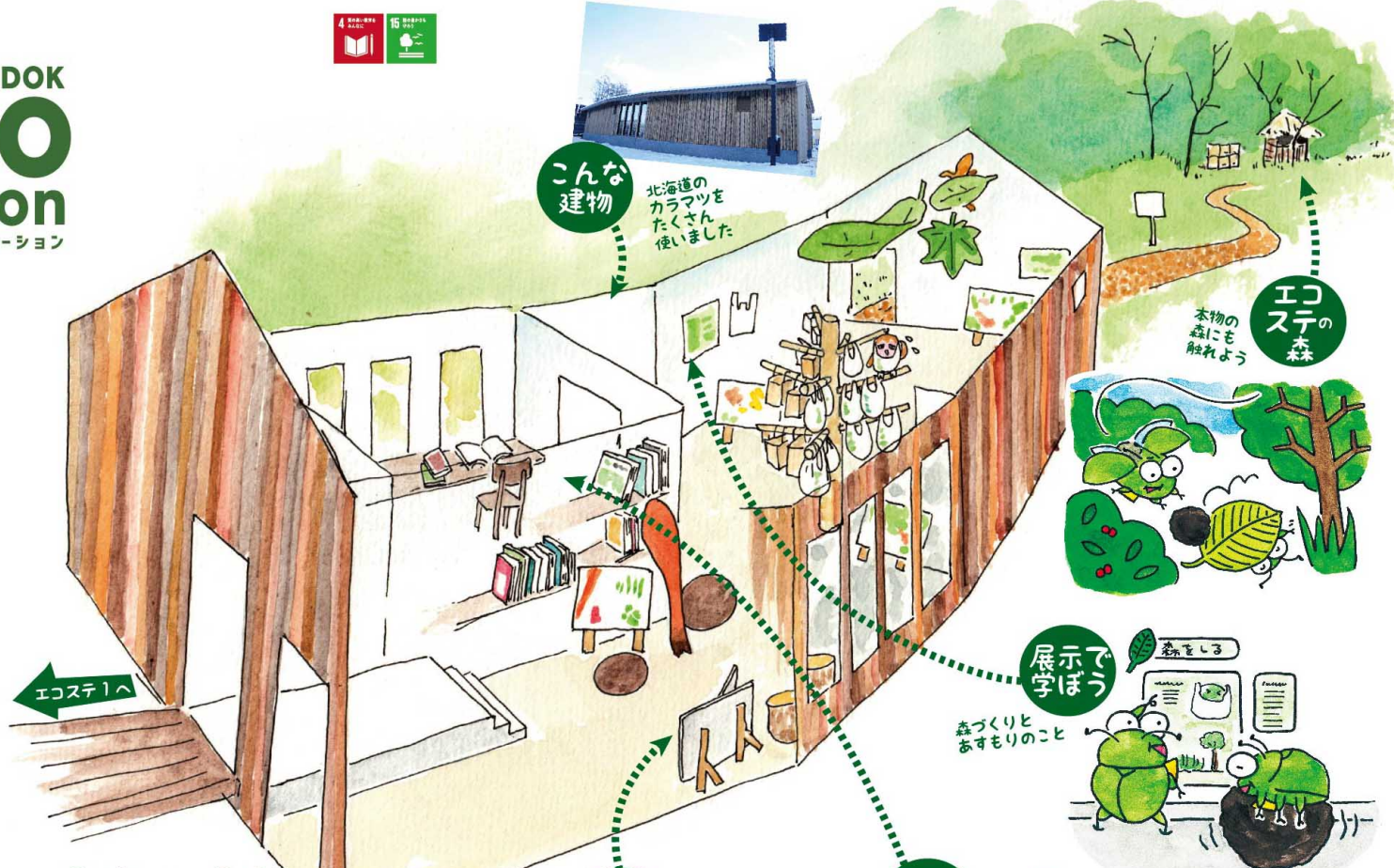


TODOK
Eco station
トドック エコステーション



森づくりのこと、 あすもりのこと、学ぶ拠点

森づくりのことやあすもりのことを紹介する施設、「あすもり資料室」が2019年にオープンしました。この施設は、大きな絵本や解説パネルなどで森づくりの大切さを知ることができるほか、森や生き物の本をたくさん集めた図書室や、野幌の原生林の面影を残した小さな森を探検することができます。資料と実際の森にも触れて、森のことを知ってください。



こんな建物
北海道のカラマツをたくさん使いました。

エコステの森
本物の森にも触れよう

展示で学ぶ
森を知る
森づくりとあすもりのこと

図書室には
森の図鑑や絵本がいっぱい!

大きな絵本で
楽しんで森づくりについて知ろう

あすもりに
ふんちゅうぎょうだい
のふんを食べて分解して
森に還す

ふんちゅうぎょうだい

あすもり資料室の「ふんちゅうぎょうだい」は森に住むオオセンチコガネという、美しい甲虫の兄弟です。彼らは動物たちのふんを食べて分解し、森に還す優秀な森のリサイクル屋さんなのです。そんなことから、あすもり資料室の案内役をしてもらうことにしたのですが、それはコープのリサイクル施設であるエコセンターがとなりにあるからです。ふんちゅうぎょうだいと森を美しく保っているように、エコセンターも人の暮らしを保っています。森といっしょにエコセンターのリサイクルも勉強してみよう。



穴を掘って動物のふんを埋めるよ

あすもりに
ふんちゅうぎょうだい
のふんを食べて分解して
森に還す

森はいつでもキレイ!